

# トビウオ通信 (H19 第 5 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)  
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 18 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

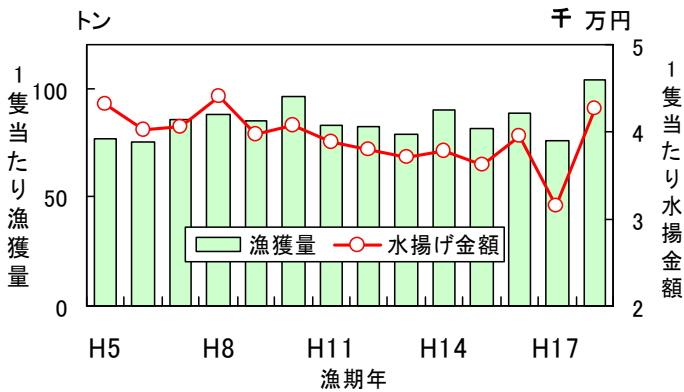


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

### 1 隻あたり漁獲量・金額、平年を上回る！

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 56 隻\*の平成 18 年漁期 (平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 5,821 トン、総水揚げ金額は 23 億 9,382 万円でした。1 隻あたり漁獲量は 104 トン、水揚げ金額は 4,275 万円といずれも平年 (10 年平均値 85.2 トン、3,834 万円) を上回りました (図 1)。大型クラゲが来遊したものの沖合域は比較的少なく、冬季の海況も穏やかだったことから、操業が順調に推移したことが主な原因と考えられました。

\* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 57 隻ですが、統計は 56 隻分の集計です。

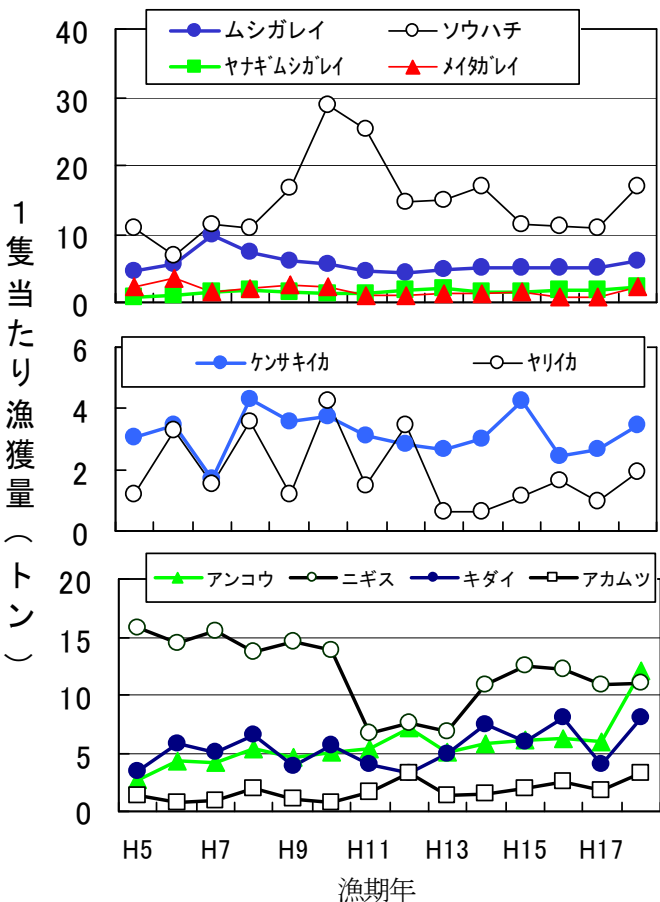


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

### カレイ類堅調

ソウハチの 1 隻あたり漁獲量は 17 トンで、平年並みでした。また、ムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は 6.1 トンで、平年を 1 割上回りました。一方、近年安定しているヤナギムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は平年を約 5 割上回る 2.4 トン、メイタガレイの 1 隻あたり漁獲量は 2.4 トンで平年を 7 割上回りました。カレイ類は全体的に堅調に推移しました。

### イカ類やや回復

ケンサキイカの 1 隻あたり漁獲量は 3.5 トンで、前漁期を 3 割上回り、ほぼ平年並みでした。また、ヤリイカの 1 隻あたり漁獲量は 1.9 トンで、平年を 1 割上回りました。

ケンサキイカ、ヤリイカともに平年並みに推移しました。

### アンコウ好調！

ニギスの 1 隻あたり漁獲量は 11 トンで、前漁期、平年並みでした。キダイの 1 隻あたり漁獲量は 8 トンで平年を 5 割上回りました。近年高水準で推移しているアンコウの 1 隻あたり漁獲量は 12.1 トンで、前年、平年の 2 倍の水揚げがありました。アカムツの 1 隻あたり漁獲量は 3.3 トンで、前年、平年を 9 割上回る水揚げがありました。

## 沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

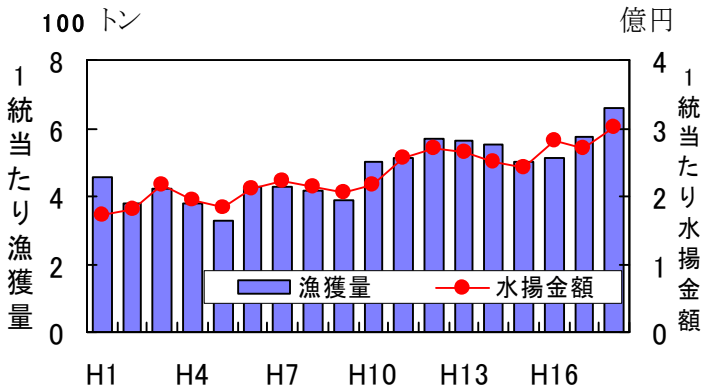


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

### カレイ類好調！

ムシガレイの1統当たり漁獲量は104トンで、前漁期を2割、平年を6割上回りました。

近年減少が続いていたソウハチですが、今漁期は冷水の張り出しが例年よりも強く、冷水を好む本種も比較的多く漁獲されました。1統当たり漁獲量は55トンで、前漁期の1.7倍、平年の1.4倍の漁獲がありました。今漁期は小型魚が多く漁獲されましたが、鳥取県の沖底では小型魚が少なかったことから、分布の偏りによる影響と考えられました。

ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は24トンで、前漁期の1.2倍、平年の1.4倍の漁獲がありました。

### イカ類低調

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は29トンで、平年の約6割に留まりました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は7トンで、平年の7割に留まりました。

### アンコウ好調！

アナゴの1統当たり漁獲量は50トンで、前漁期、平年を4割上回りました。アンコウの1統当たり漁獲量は67トンで、好調だった前漁期を5割上回る漁獲がありました。また、キダイの1統当たり漁獲量は42トンで、低調だった前漁期の2.8倍、平年を5割上回りました。

アカムツの1統当たり漁獲量は24トンで、前年を5割、平年を9割上回りました。しかしながら、産卵加入前の2歳魚が漁獲の中心であったため、今後の資源動向に注意が必要です。

一方、ニギスの1統当たり漁獲量は32トンで、前漁期の7割の漁獲に留まりました。

### 1統あたり過去最高の水揚金額！

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数5ヶ統)の平成18年漁期(平成18年8月16日～19年5月31日)の総漁獲量は3,301トン、総水揚金額は15億300万円でした。また、1統当たりでは、漁獲量660トン、水揚げ金額3億6000万円で、平年(過去10年平均値509トン、2億4,728万円)を上回りました。大型クラゲが来遊したものの沖合域は比較的少なく、操業も順調に推移したこと、主な漁獲対象であるカレイ類が好調に推移したことが主な原因と考えられました。

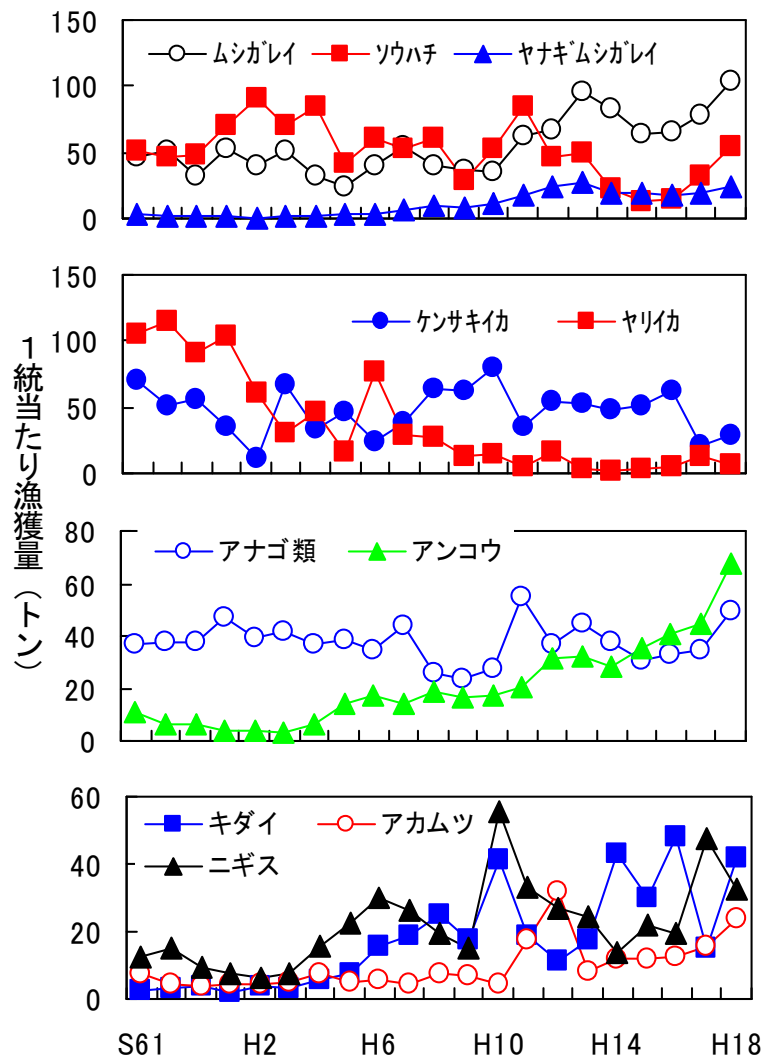


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向